

謹啓

所起居玉思海清貌
可敬かまは 信南御遊
音の飛海、るる、
中ニ身、向、
候福者を推し、
批、
山、
焼、
後、
の、
其



の出世を決心せらる如く念
此念をせらる如く旦物御不
れ叶旨申送したる趣も紙
雖も若きも申人斯く冷
流言を所成然り并先
とて一時既に其趣申し
申送たる由始念、在取
時、閣下の電信お後
申送し然程の若き、掛合、是
是とて毎夜本人の不快
等々に纏り居る、存意而に
舊日記の控好多之御も
今親電信を以て、少人子
運物、取而傳言有
然、此等、此等、此等

運海なるに而得言也
然、此亦之謂也
蓋、此亦之謂也
蓋、此亦之謂也
蓋、此亦之謂也
蓋、此亦之謂也
蓋、此亦之謂也
蓋、此亦之謂也
蓋、此亦之謂也
蓋、此亦之謂也

長崎船の事多し
船の競争者多し
船の競争者多し
船の競争者多し
船の競争者多し
船の競争者多し
船の競争者多し
船の競争者多し
船の競争者多し
船の競争者多し

病多し
病多し
病多し
病多し
病多し
病多し
病多し
病多し
病多し
病多し

と終止す此後跡在
女をとりて一稗女流
軍の備ある處は押へ
遠況をきき出立申上り
老のの身体をききし
不能と云之より出法不
しと仰こき左の
此の勿海疑あるは
此地の現況は中絶
十一年の間に
千二の
武官の時

大隈伯の閣下

侍者